

私達が住む日本の空を、みんなで美しい空へ！

# 美空 ~MISORA~

第73号

発行日:2014年9月25日(木)

発行者:NPO 法人電線のない街づくり支援ネットワーク

理事長 高田 昇

## 大阪府庁道路環境課 河瀬様に アンケートを実施しました。

今回、大阪府が無電柱化に対して、どのように考えているか、また今後の計画、住民からの声などを知りたいと思い実施しました。大阪府は、東京都に次ぐ大都市であり、西日本の主要都市でもあります。そこに電柱があると移動の妨げになり、観光地や観光客が集まる場所では、景観を残念にしまいます。それを改善するためには電柱・電線をなくすことが必要となります。無電柱化を進めるにはお金(予算)が必要となり、大阪府は、道路改良費(電線共同溝)の平成26年度当初予算(最終調整)を161,922千円としています。

### Q1.大阪府が考える電線類地中化のメリット・デメリットは、何ですか。

A. メリット:快適な歩行者空間の形成や良好な景観の保全と形成。都市防災の向上。

### Q2.日本は電線類地中化が全体で2%(2008年3月末)しか進んでいないが、大阪府は何%まで進んでいますか。また、今後の地中化は、どこまで計画していますか。

A. これまでに約68kmで電線共同溝などの整備により無電柱化を行ってきたが、裏配線などによる無電柱化の状況は把握していないので、正確な無電柱化率は把握していない。また、平成12年に大阪府電線類地中化マスタープランを策定し、平成11年から平成30年の20年間において約80kmの整備を行うことを目標に整備に取り組んでいる。

### Q3.電線類地中化は、コストや時間がかかるといわれていますが、それを解決または改善するためには何が必要だとお考えですか。

A. コスト削減には、より安価な方法で無電柱化を行う技術開発が必要と考える。また、都市部の工事などでは夜間工事となるため施行時間が限定されることや、住民との協議に時間を要するケースがある。

### Q4.電線類地中化を行う前の住民の要望や、地中化実施後の住民の反応にどのような声がありますか。

A. 住民の方からの要望や実施後のご意見は少ない状況です。

### Q5.電線類地中化で、住民ができることに何があるとお考えですか。

A. 早期の事業完了のため、工事の目的をご理解いただき、ご協力いただけるようお願いしている。

以上が大阪府庁のアンケート内容でした。無電柱化を進めるにはコストや作業時間がかかり、住民との協議にも時間を要するため、住民との協力が必要です。

### 【活動報告】

今回の活動報告はありません。

### ◆次回の理事会等の日程

■東京活動委員会 10月25日(土) 19:00~  
住友林業株M-1 会議室/経団連ビル 8F

■大阪理事会 10月26日(日) 18:00~  
COM 計画研究所  
・各委員会活動状況報告等



ホームページでも、最新情報を詳しく掲載していきます。

<http://nponpc.net/>

フェイスブックはこちら:<http://www.facebook.com/NPONPC>

「美空」に載せてほしい事、調べてほしい事などがありましたら [info@nponpc.net](mailto:info@nponpc.net) までお送り下さい！  
皆様のご意見、お待ちしております！ tel:06-6381-4000 Fax: 06-6381-3999(※番号変わりました)

電線地中化に関するコラム・情報を月2回メールマガジンで配信しています！

ぜひこちらでも登録下さい！ → <http://www.mag2.com/m/0000266000.html>

日本の電柱・電線社会の現状について感じていることをエッセイとして綴り、お送り下さい。本会報の【随想】欄に掲載させて頂きます 1000~1500文字、簡単な自己紹介(お仕事、住所等)とポートレート(顔写真)を添えて下さい。投稿をお待ちしています！ 事務局 井上 [info@nponpc.net](mailto:info@nponpc.net)

## 無電柱化住宅販売決定！

当 NPO の法人会員様である、株式会社全農林さん。東海地方を中心に、宅地分譲事業や賃貸事業を扱っていらっしゃる不動産会社様です。

今夏より、電線地中化にこだわった分譲住宅「PURE STAGE あま木折Ⅱ」を販売されるということをお聞きし、渡辺社長にメール取材をお願いしたところ、快く応じてくださいました。

### Town Design

#### 電線地中化

空が広がる開放感高い街並み。  
視界を遮り、景観を損なう電線や電柱を地中化。街並みの開放感が高まります。災害による断線や電柱倒壊のリスクも低減。



質問 1：御社では 2013 年から無電柱化事業展開されていらっしゃるようですが、無電柱化事業に着手した契機とは何だったのですか。

—最近では、自然エネルギーを生かした太陽光発電や風力発電など、様々な取り組みがなされております。住宅においては、耐震性能や省エネ等級等で快適かつ安全な住まい作りがなされておりますが、住宅を販売するデベロッパーとして、住宅街においても差別化した安心できる街づくりができないかと考え、無電柱化に取り組むことにしました。

質問 2：無電柱化事業展開以前と以後で何か変わった点はありませんか。

—弊社の分譲地を検討いただくお客様

は、立地や小学校までの距離、買い物施設など、周辺環境についてはもちろん考慮に入れていらっしゃいます。最近のご購入いただきましたお客様には、分譲地自体の防犯や安全についてのご質問や相談も受け、無電柱化での安心な住まいぶりや特徴をご説明させていただく機会が増えました。

質問 3：初回の電線類地中化分譲住宅と、今回の分譲住宅との違いはありますか。

—前回同様、無電線化の街並み作りに取り組むと共に、街の中心に公園を作り、サークルベンチや車止めを設置させていただきました。お住まいになれる皆様の憩いの場としてご利用いただきたいと考えております。また、分譲地全体に植栽を施し、ただ無機質で綺麗なだけの街ではなく自然との調和も楽しめる街並みを目指しました。

質問 4：地中化に取り組む上での障害はありましたか。また、その課題をどのようにして乗り越えたかについて、お聞かせください。

—地方公共団体や電力会社様あるいは情報通信会社様・地中化の施工業者様など、打ち合わせは多岐に渡りました。さらには、その皆様すべての希望に沿う形に近づけるようにするなど、打ち合わせ内容もとても複雑でした。また、近隣の住民の方々にも無電柱化になることへのご理解をいただき、架空線からの切り替え工事や通行止めなど、皆様のご協力をいただき段階的に工事も施工いたしました。

無電柱化は、コスト面の問題や技術的な取り組みなどまだまだ解決すべきことが沢山ありますが、行政を含めた地域の方々为一体となってご理解をいただける環境が大切だと思います。

質問 5：今後の電線類地中化に対する展望をお聞かせください。

—8月19日に行われた勉強会でもご紹介いただきましたが、電線の地中化を促す新法を制定し、電柱新設を禁止する検討が始まっています。大規模な住宅街だけでなく、小規模な住宅街であったとしても、工夫を凝らせば無電線化は可能です。今はまだ一部でしか行われていない無電線化の取り組みですが、今後様々な同業者の方々が無電線化に興味を持ち、電柱倒壊の恐れのない安全な街づくりが進んでいくよう期待しております。また、その先駆けとして、これからも無電線化の街づくりに邁進していきたいと思っております。

前回の無電柱化フォーラムのアンケートでも、無電柱化実現に期待を寄せている方々は大勢いらっしゃる一方で、コストや法制度等の面で問題点が山積であるという難しい現実を改めて認識したといった感想を寄せた方が少なくありませんでした。

しかし、渡辺社長もおっしゃっている通り、行政と周辺住民、そして専門家がともに無電柱化に取り組む環境づくりがまず必要なことだと思います。

空がよりくっきり見えるという景観面、また、地震などの二次災害を防ぐといった防災面の両面から、無電柱化住宅がもっと浸透していけばいいですね。

今後もより安全で美しい街づくりに向けて頑張ってください！

ご協力ありがとうございました。



図 2 PURESTAGE のパンフレットより

図 1 PURESTAGE のパンフレットより